

小学校英語における観点別評価のための スタディ・ログ活用に向けた可能性の検討

佐藤 大介*1

要 旨

平成 29 年告示小学校学習指導要領において、小学校英語は 5・6 年生を対象とした教科となった。合わせて、すべての教科に共通した資質・能力として三要素も整理され、英語の 4 技能は 5 領域に見直された。また、GIGA スクール構想が進められる中、学校での教育データの利活用が進められている。一方で、教員の ICT 活用指導力について、児童の学習状況の把握や評価に課題があるという指摘もある。そこで、児童が行う家庭での英語学習から得られるスタディ・ログに焦点を当て、観点別評価に活用するための可能性を検討し、具体的かつ実現可能な領域別のスタディ・ログの蓄積方法や分析の視点、活用方法について提案を行った。検討の結果、すべての観点での評価は困難であるが、スタディ・ログを活用することによって、部分的な言語材料に留まるものの、「知識・技能」の観点における児童の形成的評価の一助となる可能性は大きいと考えられる。

Keywords : 観点別評価, スタディ・ログ, 小学校英語, Google Workspace for Education, ICT 活用指導力
criterion-referenced assessment, study log, English language in elementary school, Google Workspace for Education, teaching skills with ICT

1. 研究の背景

1.1 小学校外国語（英語）における観点別評価

平成 29 年告示小学校学習指導要領（文部科学省，2017）において、これまで 5・6 年生を対象に領域として実施してきた外国語活動が 3・4 年の実施となり、5・6 年生を対象に教科としての外国語科が新設された。文部科学省初等中等教育局長通知（2019）によると、評価について、外国語活動は評価の観点に即して児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入することとなった一方、外国語科は、他教科同様、教師は児童の学習状況を評価する必要がある。

平成 20 年改訂の学習指導要領では、「関心・意欲・態度」として「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」として「表現の能力」（話すこと・書くこと）、技能として「表現の能力」と「理解の能力」（聞くこと・読むこと）、「知識・理解」として「言語や文化についての知識・理解」の 4 観点で評価していた。しかし、平成 29 年改訂では、教育課程の枠組みが見直され、資質・能力の三要素として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」に評価の観点が整理された（中央教育審議会，2016）。また、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの 4 技能は、聞くこと・読

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

むこと・話すこと [やりとり], 話すこと [発表], 書くことの 5 領域に見直された。小学校学習指導要領には外国語活動及び外国語の各目標が、領域別に段階的に Can-Do の形で示されている (表 1)。これらの目標や内容の項目をそのままりごとに細分化したり整理したりした領域別の評価規準も作成されている (国立教育政策研究所教育課程研究センター, 2020)。

1.2 スタディ・ログの活用について

GIGA スクール構想により学校の ICT 環境が飛躍的に整備された。さらに、児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができる CBT (Computer Based Testing) システム「MEXCBT」(メクビット) の整備を文部科学省は進めており、今後公的な CBT プラットフォームとしてコンテンツや機能を拡充させていくとしている (文部科学省総合教育政策局教育 DX 推進室, 2023)。また、CBT のメリットとして、操作ログ等の分析による児童生徒のつまづき等に関する多角的な分析が可能であるとしている。

児童生徒によるコンピュータ上での学習は、紙による学習と異なり、多くのスタディ・ログ (学習履歴, 学習評価, 学習到達度) を蓄積させることが可能である。「エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業」事業推進委員会が作成したガイドブック (2020) では、個人の学習状況等のスタディ・ログを学びのポートフォリオとして電子化・蓄積し、指導と評価の一体化を図ることの重要性について言及している。教育データの利活用に関する有識者会議による論点整理 (中間まとめ) (2021) では、スタディ・ログを含めた様々な教育データの利活用についての具体的なイメージ図 (図 1) を作成している。スタディ・ログの活用によって、児童にとっては学びの振り返り・拡大・補完、教師にとってはきめ細かい指導・支援・自身の成長等への効果が期待されている。

2. 研究の目的

小学校教員が小学校英語を指導するための ICT 活用能力について佐藤 (2022) は、児童の学習状況の把握や評価に課題があると指摘している。このことから、今後スタディ・ログが小学校に整備されたとしても十分に利活用されない懸念が残る。

そこで本稿では、小学校英語の観点別評価のためのスタディ・ログ活用に向けた可能性の検討を行い、具体的かつ実現可能な領域別のスタディ・ログの蓄積方法や評価のための分析の視点、活用方法について考察・提案することを目的とする。なお、本稿では、学校における ICT 環境として Google Workspace for Education の基本的な機能が、教師・児童ともに利用できる環境にあり、児童は教師が作成した課題を家庭で取り組むことを想定し、検討を行っている。

表1 小学校外国語活動及び外国語における5つの領域別の目標

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語
聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
	ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	/	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
		イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと [やり取り]	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと [発表]	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
	イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
	ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	/	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
		イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

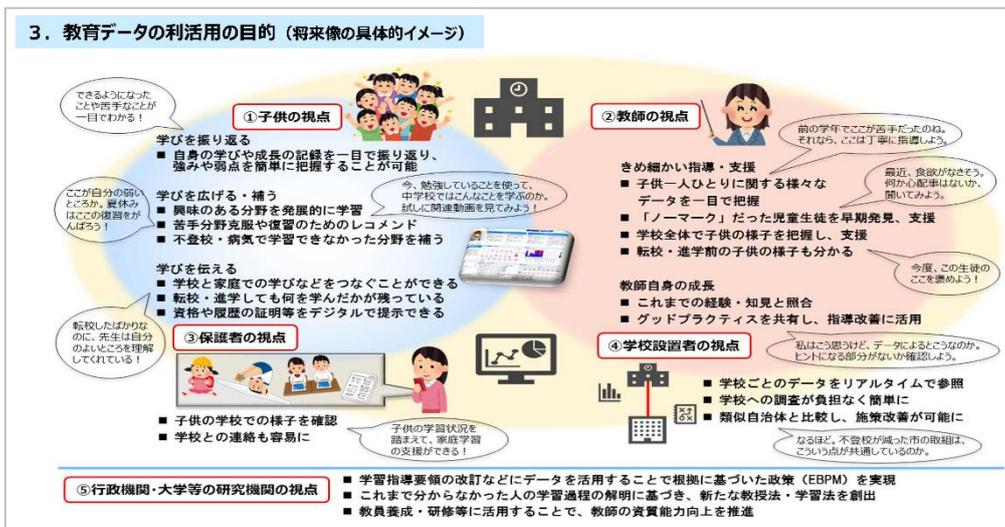


図1 教育データの利活用の目的（将来像の具体的なイメージ）
 （出典：教育データの利活用に関する有識者会議（2021））

3. スタディ・ログの活用に向けた蓄積方法の検討

(1) 聞くこと

「聞くこと」の領域では、デジタル教材によって発音された文字や単語を聞き取ったり、話された内容について理解したりすることができるかについて、評価するためのスタディ・ログを蓄積する必要がある。そのため、Google フォームを活用した小テストを提案する。執筆時において、Google フォーム上で音声そのまま再生することはできない。そのため、デジタル教科書の URL や、教師が用意した音声教材（本人や ALT による録音等）を Google ドライブにアップロードし共有設定を行った共有リンク URL を、Google フォームの質問欄に挿入する。これにより、児童は音声のウェブページまたは音声ファイルにアクセスし聞くことが可能となる。児童はその音声を聞き、問題に回答する。回答方法については、文字、語句、文による入力のほかに、ラジオボタン・チェックボックス形式であれば画像を指定することもでき、児童の学習状況や発達段階に合わせて回答方法な設定が可能である。

(2) 読むこと

「読むこと」の領域（高学年のみ）では、活字体の文字を識別したり、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味を理解したりすることができるかについて、評価するためのスタディ・ログを蓄積する必要がある。活字体の読みについては、Google ドキュメントのツールにある音声入力を活用する方法を提案したい。Google ドキュメントの音声入力を使用するには、言語の初期設定が日本語となっているため、「English (United States)」等に変更する必要がある。児童は Google ドキュメントの指定の枠に、語句や文を声に出して読み、音声入力を行う。この時、ログを効率よく分析できるように、表を挿入し、同じ列（縦の列）に児童の音声が入力されるよう工夫するとよい。また、児童が複数回練習できるよ

音声入力を使って、声に出して練習しましょう。

英語	1回目	2回目
sunny	児童の音声入力	児童の音声入力
rainy	児童の音声入力	児童の音声入力
How's the weather?	児童の音声入力	児童の音声入力
It's cloudy.	児童の音声入力	児童の音声入力
It's snowy.	児童の音声入力	児童の音声入力

図2 Google ドキュメントを活用した「読むこと」に関する課題例

う、列を追加して学習回数を増やす工夫も考えられる（図2）。列が増えても表示できるよう、ページ設定画面から「ページ分けなし」の設定にしておくことで、幅が広がるため列の追加にも容易に対応可能となる。ただし、児童が使用する端末の画面サイズを教師は考慮する必要がある。

(3) 話すこと [やりとり]

「話すこと [やりとり]」の領域では、英語による平易な指示・依頼に応じたり、自分の気持ちや考えを伝えたり、相手を理解するために質問したりすることができるかについて、評価するためのスタディ・ログを蓄積する必要がある。この領域では、デジタル教科書や音声教材の URL を、Google ドキュメント上に音声ファイルのリンクとして挿入し、音声入力による学習が可能となる形式を提案する。児童は音声ファイルを Google ドキュメント上で聞き、質問や指示に対して応答する。また、「A さんの好きなものが気になりました。どうしますか。英語で伝えてみましょう」のように日本語での指示文に対して、音声入力を用いて英語で回答する形式も考えられる。

(4) 話すこと [発表]

「話すこと [発表]」の領域では、自分のことや身近な事柄について英語で話すことができるかについて、評価するためのスタディ・ログを蓄積する必要がある。この点については、音声入力が可能なシステムが限られているため、「(2) 読むこと」と同様に、Google ドキュメント上での音声入力による方法の活用が考えられる。

将来の夢について教えてください。あてはまるものを選びましょう。

	1番目	2番目	3番目	4番目	5番目
(1)	I	want	to	be	
(2)	I	like			
(3)	I	study			

将来の夢について、手書き入力を書いてみましょう。

	1番目	2番目	3番目	4番目	5番目
(1)	I	want	to	be	
(2)	I	like			
(3)	I	study			

正しい順番に英語を並べましょう。

	1番目	2番目	3番目	4番目	5番目	6番目	採点
(1)	I	want	to	be	a	soccer player	正解
(2)	I	like	soccer	playing			
(3)	I	study	P.E.				正解

図3 Google スプレッドシートを活用した「書くこと」に関する課題例

(5) 書くこと

「書くこと」の領域（高学年のみ）では、大文字や小文字を書いたり、語順を並び替えたり、また、英語で書かれた文の一部を置き換えたりすることができるかについて、評価するためのスタディ・ログを蓄積する必要がある。そこで、Google スプレッドシートを活用した並び替え問題の作成を提案する。Google スプレッドシートにあるデータの入力規則のプルダウン（限られた選択肢の中から1つを選ぶ形式）を活用して、例えば、児童は「I want to be []」の目的語に当てはまる語句について自らの考えに基づき、選択肢の中から選ぶ。次に、その文字を見ながら、入力ツール選択から英語の手書き入力を設定し、手書きで文字の入力を行う。また、入力規則を活用した語順整序問題による学習も考えられる(図3)。

4. 小学校英語の観点別評価のためのスタディ・ログの活用に向けた可能性の検討

すべての領域において、児童による家庭での英語学習のスタディ・ログを蓄積することは可能である。教師は、こうしたログを児童ごとにデータベースとして表にまとめ、評価に活用することが求められる。データベース作成時にはあらかじめ、領域別の各課題や各問題について観点をそれぞれ設定することによって、集計作業の負担を軽減することができる。また、データベースは表形式となるため、Google スプレッドシート（Google フォームによる回答集計を含む）だけでなく、Google ドキュメントでも表を活用することにより、児童の学習内容を教師はデータベースにコピー&ペーストの作業によってスムーズに追加することができる。表形式でない場合、該当箇所を個別に選択する必要があり、教師の作業負担は増加するため効率性の面から有効であるとは言えない。

ここから、評価の観点別に検討を行う。

「知識・技能」の観点においては、すべての領域において児童の形成的評価に活用が可能であると考えられる。家庭学習用課題を作成する場合、Google スプレッドシートの関数を使用して採点機能を設定することにより、教師・児童共に学習状況の把握が可能となる。ただし、音声入力を用いる場合、システム上の音声認識の判定基準によって正しい発音を誤って認識したり、またその逆の可能性もあつたり、アクセントやイントネーション、意味の区切りといった音声を重視した小学校英語で活用するには、提案した形では課題も残り、児童に録音した音声データを提出してもらい採点する等さらなるログの蓄積が必要である。また、手書き入力においては、大文字・小文字の判別はシステム上で可能であるが、画面上に四線は引かれていないため、四線を意識した書き方となっているかについて評価することはできない。

「思考・判断・表現」の観点においては、自分の考えや気持ちについて、選択肢の中から語順や意味等を考え適切に答えることができるかといった観点で評価することは可能である。ただし、伝え「合う」という視点では、一方向となってしまう。これを解消するためには、児童間でオンラインによるコミュニケーション活動を設定する必要があるが、こうしたやり取りに関するスタディ・ログを蓄積することについて、児童が同じ時間帯に端末を利用できる環境が必要であつたり、そのやりとりにおける教師の監視が難しかったりすること等から、対応は困難であり、評価に活用することは難しいと考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、他者に配慮したコミュニケーションであるかスタディ・ログだけで評価することができない。自らの学習を調整したり、粘り強い取り組みを行ったりしているかといった点については、家庭学習の取り組み状況を参考材料の1つとして評価に活用することは可能である。

5. まとめ

本稿では、これから利活用が想定される教育データ、特に、児童が家庭で行う英語学習から得られるスタディ・ログに焦点を当て、観点別評価への活用方法とその可能性を探った。ICT 環境として Google Workspace for Education を基本としたが、本稿で提案した機能は、Microsoft 社の Word, Excel, Forms 等でも同様の機能がある。一方で、「英語」という教科特性から、音声入力や四線による手書き入力等、(執筆時には)機能の限界があるため、すべての観点で評価を行うことは困難であると考えられる。しかし、授業中の行動観察や振り返りシートの点検、ワークシートの記述状況や活動のポートフォリオの活用等、複数の学習状況や学習結果を用いて総合的に評価すべきであることは言うまでもない。しかし、スタディ・ログの活用によって、部分的な言語材料に留まるものの、「知識・技能」の観点では児童の形成的評価の一助となる可能性は大きい。今後、Web アプリケーションはさらなる進化・発展が期待されており、学校に対して様々な授業支援・校務支援システムの提供・導入が進められる。そうした中で、児童の学習評価のためのスタディ・ログの活用について、より深く検討していかなければならない。

文 献

- 中央教育審議会. (2016). 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申). 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
- デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議. (2021). デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議 第一次報告. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/content/20210607-mxt_kyokasyo01-000015693_1.pdf
- 「エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業」事業推進委員会. (2020). 教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/content/20200626-mxt_jogai02-100003155_004.pdf
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター. (2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 外国語・外国語活動】. 指導資料・事例集: 国立教育政策研究所. https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf
- 教育データの利活用に関する有識者会議. (2021). 教育データの利活用に係る論点整理 (中間まとめ). 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/158/mext_00001.html
- 文部科学省. (2017). 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf
- 文部科学省初等中等教育局長. (2019). 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について (通知). 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm
- 文部科学省総合教育政策局教育 DX 推進室. (2023). 文部科学省 CBT システム(MEXCBT : メクビット) について. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/content/20230718-mxt_syoto01-000013393_1.pdf
- 佐藤大介. (2022). 小学校英語教育における ICT 活用に関する小学校教員の現状と課題に関する研究. 学校教育研究, 37, 99-111.